

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質								2.6
Q1 室内環境			0.34					2.9
1 音環境		3.3	0.15	-	-			3.3
1.1 騒音		3.0	0.40	-	-			
1 1 室内騒音レベル		3.0	1.00	-	-			
2 2 設備騒音対策		-	-	-	-			
1.2 遮音		3.4	0.40	-	-			
1 1 開口部遮音性能		3.0	0.60	-	-			
2 2 界壁遮音性能	界壁遮音性能: Dr - 40	4.0	0.40	-	-			
3 3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	-	-			
4 4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	-	-			
1.3 吸音	作業場・壁・天井に吸音材使用。事務室:床・天井に吸音材使用。	4.0	0.20	-	-			
2 温熱環境		2.4	0.35	-	-			2.4
2.1 室温制御		3.0	0.50	-	-			
1 1 室温		3.0	0.38	-	-			
2 2 負荷変動・追従制御性		-	-	-	-			
3 3 外皮性能		3.0	0.25	-	-			
4 4 ゾーン別制御性		3.0	0.38	-	-			
5 5 温度・湿度制御		-	-	-	-			
6 6 個別制御		-	-	-	-			
7 7 時間外空調に対する配慮		-	-	-	-			
8 8 監視システム		-	-	-	-			
2.2 湿度制御		3.0	0.20	-	-			
2.3 空調方式		1.0	0.30	-	-			
3 光・視環境		2.7	0.25	-	-			2.7
3.1 昼光利用		2.2	0.30	-	-			
1 1 昼光率		1.0	0.60	-	-			
2 2 方位別開口		-	-	-	-			
3 3 昼光利用設備	トップライトを使用。	4.0	0.40	-	-			
3.2 グレア対策		3.0	0.30	-	-			
1 1 照明器具のグレア		-	-	-	-			
2 2 昼光制御		3.0	1.00	-	-			
3 3 映り込み対策		-	-	-	-			
3.3 照度		3.0	0.15	-	-			
3.4 照明制御		3.0	0.25	-	-			
4 空気環境		3.6	0.25	-	-			3.6
4.1 発生源対策		4.0	0.50	-	-			
1 1 化学汚染物質	全面的にF を採用。	4.0	1.00	-	-			
2 2 アスベスト対策		-	-	-	-			
3 3 ダニ・カビ等		-	-	-	-			
4 4 レジオネラ対策		-	-	-	-			
4.2 換気		2.6	0.30	-	-			
1 1 換気量	基準法及び建築物衛生法を満たす換気量の1.2倍以上。	4.0	0.33	-	-			
2 2 自然換気性能		1.0	0.33	-	-			
3 3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.33	-	-			
4 4 給気計画		-	-	-	-			
4.3 運用管理		4.0	0.20	-	-			
1 1 CO ₂ の監視		3.0	0.50	-	-			
2 2 喫煙の制御	建物全体が禁煙。	5.0	0.50	-	-			
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-			3.4
1 機能性		3.1	0.40	-	-			3.1
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	-	-			
1 1 広さ・収納性		3.0	0.33	-	-			
2 2 高度情報通信設備対応	OA707、コンセント容量40VA以上、複数回線事業者より引込み予定	4.0	0.33	-	-			
3 3 バリアフリー計画		1.0	0.33	-	-			
1.2 心理性・快適性		4.0	0.30	-	-			
1 1 広さ感・景観	平均事務室天井高:2.7m以上。かつ、窓がある。	4.0	0.33	-	-			
2 2 リフレッシュスペース	リフレッシュコーナーが各執務スペースの1%以上あり、自販機コーナーがある。	5.0	0.33	-	-			
3 3 内装計画		3.0	0.33	-	-			
1.3 維持管理		3.0	0.30	-	-			
1 1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50	-	-			
2 2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50	-	-			
3 3 衛生管理業務		-	-	-	-			
2 耐用性・信頼性		2.9	0.31	-	-			2.9
2.1 耐震・免震		3.0	0.48	-	-			
1 1 耐震性		3.0	0.80	-	-			
2 2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-			
2.2 部品・部材の耐用年数		2.8	0.33	-	-			
1 1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.23	-	-			
2 2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.23	-	-			
3 3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	床:タイルカーペット、壁:石膏ボード+EP、天井:石膏ボード 最短20年	5.0	0.09	-	-			
4 4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.08	-	-			
5 5 空調・給排水配管の更新必要間隔	使用量上位3種の内、2種以上にB以上を使用している。	4.0	0.15	-	-			
6 6 主要設備機器の更新必要間隔		2.0	0.23	-	-			

2.4 信頼性			3.0	0.19	-	-	
1	空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-	
3	電気設備		3.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備		3.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性			4.3	0.29	-	-	4.3
3.1 空間のゆとり			5.0	0.31	-	-	
1	階高のゆとり	事務所部分階高:4.15m 3.9m	5.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率:0.09 <0.1	5.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり		積載荷重:4500N/m2以上を想定している。	5.0	0.31	-	-	
3.3 設備の更新性			3.1	0.38	-	-	
1	空調配管の更新性	構造部材だけでなく仕上材を痛めることなく更新修繕ができる。	4.0	0.17	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.17	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.11	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.11	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.22	-	-	
6	バックアップスペース		3.0	0.22	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.36	-	-	1.8
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			2.0	0.40	-	-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	-	2.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		2.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.6
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.1
1 建物の熱負荷抑制		PAL低減率:42.5% 35%	5.0	0.12	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用			3.5	0.25	-	-	3.5
2.1	自然エネルギーの直接利用	2階事務室にトップライトを採用。	4.0	0.50	-	-	
2.2	自然エネルギーの変換利用		3.0	0.50	-	-	
3 設備システムの高効率化		ERR=37.5% 35%	5.0	0.38	-	-	5.0
集合住宅以外の評価(ERRによる評価)		ERR=37.5%	5.0	-	-	-	
集合住宅の評価			3.0	-	-	-	
4 効率的運用			3.0	0.25	-	-	3.0
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.1
1 水資源保護			3.4	0.15	-	-	3.4
1.1	節水	節水コマ + 省水型便器を採用。	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.67	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.33	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.9	0.63	-	-	2.9
2.1	材料使用量の削減	大梁の鉄骨設計基準強度490N/mm2以上、柱にBCPを採用。	5.0	0.07	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.24	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	-	
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	-	1.0	0.20	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.05	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	躯体 + 軽鉄 + 仕上げ材	4.0	0.24	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.6	0.22	-	-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.32	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			4.0	0.68	-	-	
1	消火剤	屋外消火栓 + 消火器(不活性ガス消火剤)	4.0	0.33	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	発泡剤を用いた断熱材を使用していない。	5.0	0.33	-	-	
3	冷媒		3.0	0.33	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2排出率 = 78%	3.8	0.33	-	-	3.8
2 地域環境への配慮			3.3	0.33	-	-	3.3
2.1 大気汚染防止		燃焼機器の使用なし。	5.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.5	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		1.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	0.50	-	-	
2	振動		3.0	0.50	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		1.0	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.0	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-	
2	壁光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	